



## ワークショップ 前

## 1. 育てたい生徒像

- 子供達には、自身の価値観を基に自分の頭で考え、判断できるように育てほしい。

## 2. 単元(本時)の授業の目標

- 聖書から何かしらの不満が解消されたり、聖書の学びの時間が楽しいと思ってもらえるようにしたい。

## 3. 授業の中での具体的な問い

## 【Extensions】

- ①なぜ、イエス様は罪人と付き合ったのだと思いますか？
- ②なぜ、イエス様は正しい人と言われているファリサイ派と付き合わなかったのだと思いますか？

## 【Connections】

- ③なぜ、周囲から白い目で見られている人たちと付き合っ  
はいけないのでしょうか？

## 【Ideas】

- ④周囲から、白い目で見られたり、見たりすることはありま  
せんか？

## ワークショップ 後

## 1. 育てたい生徒像

- 自身の価値観を基に自分の頭で考え、判断できるように育  
ってほしい。

## 2. 単元(本時)の授業の目標

- 罪人たちとの食事物語からイエス様の気持ちを考える。

## 3. 授業の中での具体的な問い

## 【Extensions】

- ⑤どのようにしたら、イエス様のように分け隔てなく付き合  
う人になると思いますか？

## 【Connections】

- ①なぜ、イエス様は罪人と付き合ったのだと思いますか？
- ②なぜ、ファリサイ派はイエス様と一緒に食事しなかったの  
だと思いますか？

## 【Ideas】

- ④' - 1 白い目で見たりすることはありませんか？
- ④' - 2 白い目で見られたりすることはありませんか？

**授業で扱う内容** ※以下、『聖書教育』2022年1, 2, 3月号 P.20 (日本バプテスト連盟) より引用。

徴税人は、不当に過剰な税を取り立て、それに加えて異教徒との接触もあり、不浄の者として軽蔑嫌悪の対象だったようです。そんな職業に就いていた徴税人レビにイエス様は「わたしに従いなさい」と命じられました。

レビは、イエス様に声をかけられた喜びから、イエス様や大勢の人を食事に招きました。

その食事の席にはファリサイ派(※)の人々も招かれていました。

しかし、イエス様の律法に対する自由な振る舞いはファリサイ派にとっては大きなつまずきとなりました。

彼らからすれば、徴税人や罪人たちは律法を守らない宗教的失格者であり、イエス様と弟子たちは大勢の罪人の仲間と同じだったのです。

「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である」とのイエス様の言葉に含意されているように、イエス様の眼差しの中では、罪人とは単に律法を守らない人ではなく、神との生活から疎外されている人でもありました。

イエス様の呼びかけは救いであり、それを分かち合うためには、癒しの必要性の認識がなければなりません。

自己正義の人は、その必要性を認識できないのです。ファリサイ派の人々は、人の目に正しく見える世界に生きることを選び、イエス様の眼差しの中に生きることを選びませんでした。

※ファリサイ派：ファリサイ派は、古代イスラエルの第二神殿時代後期に存在したユダヤ教内グループ

## ワークショップを通した気づき+NEXT STEP

### 1. 深めたい、解決したいと思っていたこと

- 人を分け隔てなく接したイエス様の考えについて。

### 2. 改善のポイント

- 5W1Hを意識しながら、問いを考えること。
- Whyの問いからHowの問いへ変えることで、より生徒自身に考えてもらう問いになったと思っている。
- 当初設定していたExtentionsの問いは、実はConnectionsかもしれないと気づかされた。
- そこから新たなExtentionsの問いがうまれた。

### 3. 新たな問い～モヤモヤ感・先生方と共に考えたいこと

- 問いのゴールとしてExtentionsから考えるが、それは仮かもしれない。Connectionsの問いを設定した時、違うExtentionsがうまれ、仮ExtentionsがConnectionsになるかもしれないと思った。
- 動詞を変えることで、どのように問いの構造が変わるのかを考えていきたい。

## Cの問いの具体化

	問いかけの意図 (活用できる疑問詞・接続詞)	評価の対象とする内容	具体的な問い
1	本当か、そもそも What	批判的な思考により、与えられた前提を問い直している。	
2	そう言える理由・ 判断の根拠 Why	考えの根拠が示され、考えや論が論理的に関係づいている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>•なぜ、イエス様は罪人と付き合ったのだと思いますか？</li> <li>•なぜ、ファリサイ派はイエス様と一緒に食事しなかったのだと思いますか？</li> </ul>
3	仮定と反事実的推測 If, If not	仮定によって、条件や状況を設定し推量の質を高めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>•もし、あなたが罪人だったらイエス様の行動や言動について、どのように思いますか？</li> </ul>
4	～にもかかわらず Even though	異質な考えや矛盾等を取り入れることで、考察をより深めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>•律法学者であるファリサイ派は宗教的合格者だったにも関わらず、なぜ、イエス様と食事しなかったのだと思いますか？</li> </ul>
5	～なら、 ～が言えるだろう If then, If not then	前提に基づいて、新たな解釈や意味を付加したり、その幅を広げたりしている。	
6	関係性の理解・発見 What ⇔ Why ⇔ How	関係性を理解したり、発見したりすることで、見いだした意味や内容を言語化している。	
7	その他		